

指定管理候補選考委員会における意見

施設名	直方市文化施設 ※ユメニティのおがた、直方市立図書館、直方歳時館、直方市石炭記念館 直方市美術館（本館・別館）		
指定期間	令和5年4月1日 ～ 令和8年3月31日		
担当課	教育委員会 文化・スポーツ推進課	評価対象事業年度	令和6年度
直方市文化施設は、ユメニティのおがた、直方市立図書館、直方歳時館、直方市石炭記念館、直方市美術館（本館・別館）6施設で構成されており、地元住民の文化の醸成を図るうえで必要不可欠な施設である。 ユメニティのおがたは、平成13年に開館し1,018席の大ホールや200人程度の小ホールを備えており、アーティストや市民の方々の発表の場として主に利用されている。 直方市立図書館は、平成14年に開館し、約20万冊の蔵書あり、事業としては、ブックスタート事業や移動図書館などの事業を展開している。 直方歳時館は、かつて炭鉱で栄えた直方の炭坑王の一人である堀三太郎氏の邸宅である。平成に入り改修したのち、純和風建築として貸館や子ども向けの教室や、作品発表会等、様々なイベントが行われている。 直方市石炭記念館は、昭和46年に開館し、令和3年に50周年を迎えた施設である。SL2台（コッペルとC11）をはじめ、炭鉱に関する史料の展示や、説明を行っている。また、本館は、明治43年の建築であり、裏手に国内初の救護練習用の模擬坑道が併設されている。これらは筑豊炭田遺跡群として平成30年10月国史跡に指定されている。 直方市美術館本館は、（通称谷尾美術館）は、昭和初期に建てられた奥野医院という皮膚科の外観をそのままに改装した建物となっている。平成13年に市立美術館としてスタートしている。所蔵している作品の中には、重要文化財「海の幸」で有名な青木茂の絵画をはじめ、地元作家の作品を中心に2,000点以上の作品を所蔵している。 直方市美術館別館は、（通称アールスペース谷尾）は、大正時代の銀行を改装したガラス工芸品の展示館である。昼夜はカフェレストランの営業もしている。美術館、美術館別館ともに平成25年に国の登録有形文化財に登録されている。 これらの施設については、指定管理導入以前は直営で管理していたが、サービスの向上や経費の削減を図ること、新たな利用者確保の取り組みが必要となっていた。加えて、施設の維持管理体制についても課題があった。以上のことから、民間事業者のノウハウを活用し、サービスの向上や住民の福祉の向上のため、平成18年度より指定管理者制度を導入している。 今回のモニタリングでは、各施設のモニタリング報告書の通り適切に運営されていると評価された。特に直方歳時館は主催事業や新たな工夫によって集客数の増加を実			

現するなど高く評価できる。一方で、委員会では運営上さらなる改善が望まれる点として以下の指摘がなされた。

①利用者アンケートについて

全文化施設において、利用者アンケートの回答数が低いことが問題である。アンケートは施設の維持・管理が適切に実施されているか、提供されるサービスが設置目的に適合しているかを確認し、改善点を明確にするための重要な手段である。より多くのアンケート回収に努めることが必要である。ニーズや改善点を探る他の手段も含めて検討し、集めた声を運営に生かす仕組みを構築することが望ましい。

②管理運営及び自主事業の実施状況について

全施設の管理運営状況は適正に行われており、評価に値する。一方で、人件費や外部委託費の実績が予定を上回る状況も見受けられる。公益財団法人の性質上、運営面での難しさがあることは理解できるが、価格転嫁が難しい事業もある中で、適切な運営管理を徹底することが求められる。

自主事業においては、特に小中学生を対象としたアウトリーチ事業が地域に出向いて実施されており、その意義・目的を達成するための取り組みは高く評価できる。今後も各施設の特性を活かした事業の立案を行い、市民の文化意識の醸成に寄与することを期待する。

その他、文化施設のビジョン、目標値の設定などについてより明確に設定することが望ましい。これについては施設所管課と指定管理事業者が一体となって検討すべきであり、緊密な連携のもとで進めていくことが重要である。本意見書を参考に、指定管理事業者や施設所管課が一体となって改善を図り、第 6 次総合計画に掲げる「歴史・文化の伝承」につながる取り組みを行っていただきたい。

(以上)